

要請番号 (JL52717A12)

募集終了



国名	職種コード 職種	年齢制限	活動形態	区分	派遣期間	派遣隊次
ナミビア	C101 食用作物・稲作栽培		個別	交替 3代目	2年	・2017/3・2017/4・ 2018/1

【配属機関概要】

1) 受入省庁名 (日本語)

高等教育省

2) 配属機関名 (日本語)

ナミビア大学オゴンゴ校作物学科

3) 任地 (オムサティ州オゴンゴ) JICA事務所の所在地 (ウインドフック)

任地からJICA事務所までの交通手段、所要時間 (飛行機+バスで 約 2.0 時間)

4) 配属機関の規模・事業内容

ナミビア国における唯一の4年制総合大学で約1万人の学生を擁する。オゴンゴ校は、季節湿地への稲作導入を含む乾燥地作物生産に関する技術開発を担い、ナミビア国の作物生産効率を高めることを目的としている。ナミビア大学オゴンゴ校の年間経常予算は約28万米ドルで、中国の研究者も短期で研究を行っている。JICAは、地球規模課題対応国際科学技術協力事業(SATREPSプロジェクト「半乾燥地の水環境保全を目指した洪水-干ばつ対応農法の提案」:2012-2017年2月終了)を実施していた。

【要請概要】

1) 要請理由・背景

オゴンゴ校が位置するオムサティ州は、年間降水量が約400mmの半乾燥地であるが、雨季になると隣国からの洪水を受けるため、広大な季節湿地が形成される。現地の小規模農家は乾燥地での栽培に適したトウジンビエ栽培と放牧を生業としており、季節湿地は農業には活用されていない。同大学では、SATREPSプロジェクトを通して、今まで活用されていなかった洪水によって形成される季節性湿地を利用した稲を新規作物として導入してきた。実際に、多くの現地の農家が稲の栽培を望んでおり、同プロジェクトの成果を現地の小規模農家へ普及するためのJVの派遣が要請された。JVは2012年より稲栽培の啓発活動、展示圃場の運営管理等を支援している。

2) 予定されている活動内容 (以下を踏まえ、隊員の経験をもとに関係者と協議して計画を立て、柔軟に内容を変更しながら活動を進めます)

稲作栽培の導入を目的に、大学の技術職員と共に以下の活動を実施する。

1. 稲作関連および野菜圃場の管理と運営
2. 稲展示圃場で観察した、稲の生育をもとにした栽培に関するアドバイス
3. 農家と学生に対する稲栽培啓発活動
4. 現場での講習会開催にかかる企画や運営
5. その他、配属先の日常業務についても可能な範囲でサポートする

3) 隊員が使用する機材の機種名・型式、設備等

トラクター(2台)、ハンドトラクター(8台)、稲刈り機(4台)、脱穀機(4台)、粃摺り精米機(2台)、Water pump(3台)

4) 配属先同僚及び活動対象者

- ・指導対象者の農家と学部学生はいずれも稲の栽培経験がほとんどないため、技術レベルは極めて初歩的なレベルといえる。
- ・配属先の大学スタッフは30数名。
- ・カウンターパート(大学農学部卒50代)は、大学の技術職員で元JICA研修員であり、技術レベルは初中級程度である。

5) 活動使用言語

英語

6) 生活使用言語

英語

7) 選考指定言語

【資格条件等】

[免許]：（ ）

[性別]：（男性） 備考：配属先の要望

[学歴]：（大卒）農学 備考：専門的知識を必要とするため

[経験]：（実務経験）3年以上 備考：稲栽培の経験

任地での乗物利用の必要性

不要

【地域概況】

[気候]：（ステップ気候） 気温：（10～40℃位）

[電気]：（安定）

[通信]：（インターネット可 電話可）

[水道]：（安定）

【特記事項】

ボランティア用に住居(戸建て)が提供されており、個人の部屋以外のトイレ、シャワー、キッチン等は共有となる。